

# 古文ドリル：「侍り・候ふ」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「侍り・候ふ」の正体（2用法）

古文の「侍り」「候ふ」は機能がほぼ同じで、**直前が連用形かどうか**だけで見分けられます。どちらも**丁寧語**（話し手→聞き手への敬意）で、尊敬・謙譲ではありません。

用法	接続・位置	訳	例
① 本動詞・丁寧	<b>単独</b> （体言・副詞の後／文末）	あります／おります／ございます	ここに <b>侍り</b>
② 補助動詞・丁寧	<b>連用形</b> +侍り・候ふ	～です／～ます	思ひ <b>侍り</b>

「侍り」はう変系（侍ら・侍り・侍り・侍る・侍れ・侍れ）、「候ふ」はハ行四段（候は・候ひ・候ふ・候ふ・候へ・候へ）。文中で「侍る」「候へば」の形でも識別の手順は同じです。

### 識別の鉄則

- 直前が動詞・形容詞・形容動詞の連用形**（思ひ・うれしく など）→ **補助動詞・丁寧**「～です／～ます」。
- 直前が体言・副詞、または文頭で単独**（ここに・花 など）→ **本動詞・丁寧**「あります／おります」。
- 「て」が挟まっても（書いて侍り）、その前の「書き」が連用形なら**補助動詞**。
- 「侍り・候ふ」は**丁寧語**。尊敬（お～になる）や謙譲（～申し上げる）と混同しない。

## 🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

### コツ① まず直前が連用形か

- 連用形+侍り・候ふ（思ひ侍り・申し候ふ・うれしく侍り）→ 補助動詞「～です／～ます」。
- 体言・副詞の後で単独（ここに侍り・花侍り）→ 本動詞「あります／おります」。

### コツ② 「て」にだまされない

- 「書いて侍り」の「侍り」は、前の「書き」が連用形なので補助動詞。「て」を見て本動詞と決めない。

### コツ③ 訳で確かめる

- 「～です／～ます」と訳せる（補助動詞）か、「ある／いる」を丁寧にした「あります／おります」（本動詞）か。

### よくある引っかけ

- 「侍り・候ふ」は丁寧語。「尊敬」「謙譲」と答えない。
- 係り結び（ぞ・なむ・こそ）の結びで「侍る・候ふ・侍れ・候へ」になっても用法は変わらない。
- 「候ふ」は鎌倉以降（平家・武家書状）、「侍り」は平安（源氏・枕草子）に多い。

## 採点表

各セッションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- 合計： /100

## 【第1部】基礎編（Q1～Q20）

本動詞（あります／おります）と補助動詞（～です／～ます）を見分ける。

Q1. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ここに侍り。

Q2. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

思ひ侍り。

Q3. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

申し候ふ。

Q4. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

花侍り。

Q5. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

読み侍り。

Q6. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ここに候ふ。

Q7. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

うれしく侍り。

Q8. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

人候ふ。

Q9. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

書いて侍り。

Q10. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

申し上げ候ふ。

Q11. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

宿侍り。

Q12. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

待ち候ふ。

Q13. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

かしこに侍り。

Q14. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

知り侍り。

Q15. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御文候ふ。

Q16. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あはれに侍り。

Q17. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御供に候ふ。

Q18. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

仕うまつり侍り。

Q19. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ものの音侍り。

Q20. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

さやうに申し候ふ。

## 【第2部】標準編 (Q21~Q50)

侍り・候ふを織り交ぜ、連用形か単独かを確実に見分ける。

Q21. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

かくなむ思ひ侍る。

Q22. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御使ひぞ候ふ。

Q23. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

見侍り。

Q24. 次の傍線部「候へ」を識別せよ。

さ候へば。

Q25. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

暮らし侍り。

Q26. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御前に候ふ。

Q27. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

をかしく侍り。

Q28. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

子ども候ふ。

Q29. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

聞き侍り。

Q30. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

山に候ふ。

Q31. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

花こそ侍れ。

Q32. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

持ち候ふ。

Q33. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

めでたく侍り。

Q34. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ここもとに候ふ。

Q35. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

仕へ侍り。

Q36. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御返事（かへりごと）候ふ。

Q37. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

立ち侍り。

Q38. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御前にぞ候ふ。

Q39. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あやしく侍り。

Q40. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

馬候ふ。

Q41. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

申し侍り。

Q42. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

都に候ふ。

Q43. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

思ひ出で侍り。

Q44. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御消息（せうそこ）候ふ。

Q45. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

久しく侍り。

Q46. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

出で候ふ。

Q47. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

庭に侍り。

Q48. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

たより候ふ。

Q49. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

よく知り侍る人。

Q50. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御前に人々候ふ。

## 【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

---

係り結び、「て」が挟まる形、候へば、紛らわしい文脈を見分ける。

-----

-----

Q51. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

書いて侍り。

-----

-----

Q52. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

文書きて侍り。

-----

-----

Q53. 次の傍線部「候へ」を識別せよ。

申し候へば。

-----

-----

Q54. 次の傍線部「侍れ」を識別せよ。

心ちあしく侍れば。

-----

-----

Q55. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

弓矢候ふ。

-----

-----

Q56. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

何事か侍る。

-----

-----

Q57. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

参り候ふ。

Q58. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ゆかしく侍り。

Q59. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

いくさ候ふ。

Q60. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

をかしう侍るものかな。

Q61. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

やがて参り候ふべし。

Q62. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

火侍り。

Q63. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

げに候ふ。

Q64. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

この程（ほど）に侍る。

Q65. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

思ひ候ふやうは。

Q66. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あまた侍り。

Q67. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

召し候ふ。

Q68. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いとよく侍る。

Q69. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御文を持ちて候ふ。

Q70. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

われも侍り。

Q71. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御伴（とも）に参り候ふ。

Q72. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

しか侍る。

Q73. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

うけたまはり候ふ。

Q74. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

御琴の音侍り。

Q75. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

静かに候ふ。

Q76. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ある所に侍り。

Q77. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

急ぎ候ふ。

Q78. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いかに侍るべき。

Q79. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

思ひ参らせ候ふ。

Q80. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あからさまに出でて侍り。

## 【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

文脈・係り結び・出典を総合して、本動詞（あります）と補助動詞（～です）を判別する。

Q81. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いとうれしと思ひ侍る。

Q82. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

一の谷の軍（いくさ）破れ候ひぬ。

Q83. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

をかしき事も侍りき。

Q84. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ここに候ふは、何者ぞ。

Q85. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

鬼ある所となむ人申し侍る。

Q86. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

矢七つ八つ候ふ。

Q87. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

いみじう恐ろしく侍りき。

Q88. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

参り候ふべく候ふ。

Q89. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

さる事侍りき。

Q90. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

しか候ふ。

Q91. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

月をあはれと見侍りき。

Q92. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御所に候ふ人々。

Q93. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

かやうの事をのみ思ひ侍る。

Q94. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

弓も候ふ、矢も候ふ。

Q95. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

恥づかしく侍り。

Q96. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ただ今参り候ふ。

Q97. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

田舎に住み侍るほどに。

Q98. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

この所に城**候ふ**。

Q99. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いとあはれにも**侍る**かな。

## 採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は、「侍り・候ふ」の**直前の語**をもう一度確認しましょう。

- **本動詞・丁寧**「あります／おります」…単独（**体言・副詞**の後／文末）。「ここに侍り」「花侍り」。
- **補助動詞・丁寧**「～です／～ます」…**連用形**+侍り・候ふ（連用形+「て」も含む）。「思ひ侍り」「うれしく侍り」「書いて侍り」。
- どちらも**丁寧語**（聞き手への敬意）。尊敬・謙譲と混同しない。
- 係り結び（ぞ・なむ・こそ・か）で「侍る・侍れ・候ふ・候へ」になっても用法は同じ。

直前が連用形か否か——これだけで一瞬で見分けられます。丁寧語の判定は会話文の読解に直結するので確実にしましょう。

この問題集は無料です。古文の他の敬語（給ふ・参る・奉る）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

**誰でも古典塾** (<https://kotennosensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太